

調 査 結 果 の 概 要

1 概 況 ー 近年にない人口増加 ー

本県最近の推計人口は、昭和43年1月1日現在で2,075,303人であり、昭和42年間における増加人口は17,450人、増加率0.85%であつた。その内訳は自然動態によるもの20,887人、自然増加率10.6%。(出生17,775人、出生率18.1%、死亡15,526人、死亡率7.5%)、社会動態によるもの△3,437人、社会増加率△1.7%(転入96,519人、転入率4.6%、転出99,956人、転出率4.83%)となつている。

本年の注目すべき点がかかなり数多くある。まず第1に昨年昭和41年には「ひのえうま」による自然増加が例年になく減少しマイナスの増加率を示した。この影響を受け、昭和42年は数年類のない増加率を記録したこと。第2に、暫時高率で続いた転出が本年に入りその減少率が微率であつたことである。

表 1. 年次別世帯人口の増減

区分 市町村別	世 帯 人 口				自 然 動 態									
	増減数		増減率%		出 生			出生率%	死 亡			死亡率%	差引増減	自然増加%
	計	男	女	計	男	女	計		男	女				
昭36	2,105	0.51	9,879	0.48	33,303	17,145	16,158	162	17,695	9,278	8,417	8.6	15,608	7.6
37	1,983	0.48	5,650	0.27	32,775	16,877	15,898	159	17,214	9,083	8,131	8.3	15,561	7.6
38	2,868	0.69	7,761	0.38	32,417	16,757	15,660	157	15,670	8,419	7,251	7.6	16,747	8.1
39	3,269	0.78	7,707	0.37	32,820	16,889	15,931	158	15,744	8,452	7,292	7.6	17,076	8.2
40	3,235	0.77	2,761	0.13	34,447	17,815	16,632	165	16,533	8,786	7,747	7.9	17,914	8.6
41	5,947	1.33	△ 774	△0.04	25,080	12,920	12,160	122	15,364	8,197	7,167	7.5	9,716	4.7
42	7,433	1.63	17,450	0.85	36,413	18,638	17,775	18.1	15,526	8,339	7,187	7.5	20,887	10.6

区分 市町村別	社 会 動 態											差引増減	転出率%	社会増加%
	転 入						転入率%	転 出						
	総 数			県外から	県内から	総 数			県外へ	県内へ				
計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
昭36	77,470	43,706	33,764	43,905	33,565	37.7	83,199	43,989	39,212	49,634	33,565	△5,724	40.5	△ 2.8
37	88,009	50,160	37,849	48,814	39,195	42.7	97,920	53,706	44,214	58,725	39,195	△9,911	47.5	△ 4.8
38	82,965	45,629	37,336	46,667	36,298	40.2	95,875	51,839	44,036	59,577	36,298	△29,10	46.4	△ 6.2
39	88,158	48,679	39,479	48,653	39,505	42.5	97,527	52,300	45,227	58,022	39,505	△9,369	47.0	△ 4.5
40	90,773	49,191	41,582	50,259	40,514	43.5	100,926	53,204	47,822	60,212	40,714	△10,153	48.4	△ 4.9
41	91,669	49,000	42,669	49,125	42,544	44.6	102,159	53,779	48,380	62,048	40,111	△10,490	49.7	△ 5.1
42	96,519	51,850	44,669	55,081	41,438	46.6	99,956	52,205	47,751	60,228	39,728	△3,437	48.3	△ 1.7

資料 茨城県統計課「茨城県の常住人口」から

2 人口の現況と推移

(1) 県の推移 一第1回国調大正9年より52.3%の増一

第1回国勢調査大正9年の人口は1,350,440人と記録され、第10回昭和40年までにはめまぐるしく変移してきた。ことに第6回昭和22年は第二次世界大戦終結により軍人軍属の復員と一般人の海外からの引揚げなどにより、第5回昭和15年から324,344人20.0人と歴史的驚異な数字を残し、本県人口も200万台へと伸びた。

その後昭和30～35年にかけて初めての減少(17,013人, 0.8%)をみ、以後暫時ゆるやかな上昇カーブを示し、また昭和41年にも微率であったが減少をした。

表2. 昭和42年市郡別，地域別，人口動態

	世 帯			人 口			自 然 動 態					
	43. 1. 1 数	増減数	増減率 %	43. 1. 1 数	増減数	増減率 %	出 生		死 亡		差引増減	自然 増加率 %
							数	率	数	率		
県計	461,976	7,433	1.63	2,075,303	17,450	0.85	36,413	18.1	15,526	7.5	20,887	10.6
市計	225,782	4,314	1.95	955,199	14,765	1.57	18,740	19.7	6,082	6.4	12,658	13.3
郡計	236,194	3,119	1.34	1,120,104	2,685	0.02	17,673	15.8	9,444	8.4	8,229	7.4

	社 会 動 態					
	転 入		転 出		差引増減	社会 増加率 %
	数	率	数	率		
県計	96,519	46.8	99,956	48.3	△ 3,437	△ 1.7
市計	52,988	55.7	50,881	53.4	2,107	2.3
郡計	43,531	38.9	49,075	43.8	△ 5,544	△ 4.9

	世 帯			人 口			自 然 動 態					
	43. 1. 1 数	増減数	増減率 %	43. 1. 1 数	増減数	増減率 %	出 生		死 亡		差引増減	自然 増加率 %
							数	率	数	率		
県北	219,899	3,330	1.54	956,558	7,778	0.82	17,274	18.1	6,330	6.8	10,947	11.5
鹿行	37,040	356	0.97	179,418	△ 64	△ 0.03	2,888	16.1	1,448	8.1	1,440	8.0
県南	110,454	2,097	1.94	493,398	6,477	1.33	8,207	16.7	3,994	8.1	3,715	8.6
県西	94,583	1,650	1.77	445,929	3,259	0.74	8,044	18.1	3,754	8.4	4,290	9.7

	社 会 動 態					
	転 入		転 出		差引増減	社会 増加率 %
	数	率	数	率		
県北	47,826	50.1	50,992	53.4	△ 3,162	△ 3.3
鹿行	6,485	36.1	7,989	44.5	△ 1,504	△ 8.4
県南	23,927	48.6	21,659	44.0	2,264	4.6
県西	18,285	41.1	19,316	43.4	△ 1,025	△ 2.3

資料

茨城県統計課「茨城県常住人口」から

(2) 市郡別 〓市部へ集中化する人口移動〓

増加数 17,450 人のうち市部は 85% にあたる 14,765 人が増加している。

これを人口増加率で

みると市郡 1.57%

郡部 0.02% と市郡

が特に高いことがわ

かる。

これを要因別にみる

と自然増加率では、

市部 13.3% に対し

郡部 7.4%。社会増

加率では 2.3%。

△ 4.9% と市部集中

化の傾向を示してい

る。

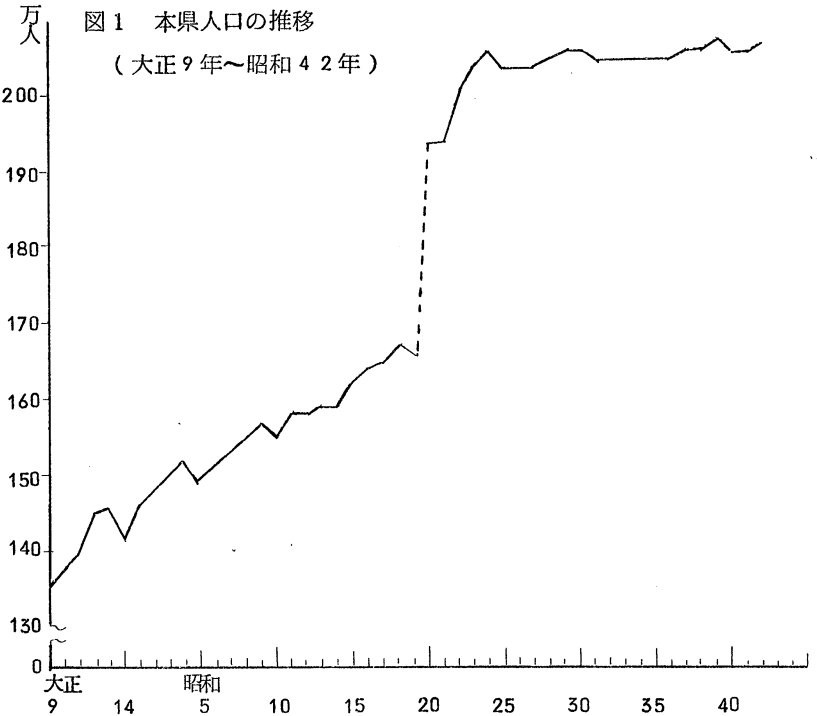


表 3 市郡部別人口の推移—大正 9 年～昭和 4 0 年—

	大正 9 年	大正 1 4 年	昭和 5 年	昭和 1 0 年	昭和 1 5 年	昭和 2 0 年	昭和 2 5 年	昭和 3 0 年	昭和 3 5 年	昭和 4 0 年
県計	1,350,400	1,409,092	1,487,097	1,548,991	1,620,000	1,944,314	2,039,418	2,064,037	2,047,024	2,056,154
市計	339,363	465,27	506,48	638,16	149,178	131,685	216,184	725,962	881,682	932,336
割合	29%	33	34	4.1	9.2	6.8	10.6	35.2	43.1	45.3
郡計	1,311,037	1,362,565	1,436,649	1,485,175	1,470,822	1,812,659	1,823,234	1,338,075	1,165,342	1,123,818
割合	97.1%	96.7	99.6	95.9	90.8	93.2	89.4	64.8	56.9	54.7

資料 昭和 4 0 年国調「茨城県の人口」から

(3) 地域別 ―人口減少は鹿行地域だけ―

本県を4地域別に区分し，その人口増加等をみると，本年間の増加人口は17,450人，増加率0.88%であることは前記したが，その中でただ微数であるが鹿行地域だけが△64人，△0.03%の減少をみた。

それにひかえ，県南地域の伸びは目を見張るものがある。

今や，県南は首都圏の「ベットタウン」として発展し，今後の都市づくりに興味をおぼえる。

なかでも藤代町，取手町の人口増加率は本県においては極めて高率な5.93%4.59%を示している。

なお，大正9年から人口の推移をみると，県北が68.6%と最も伸び，県西は37.8%と低い。

表4 地域別人口推移指数 ―大正9年＝100―

	大正 9年	大正 14年	昭和 5年	昭和 10年	昭和 15年	昭和 20年	昭和 25年	昭和 30年	昭和 35年	昭和 40年	昭和 42年
県計	100.0	104.3	110.1	114.7	120.0	144.1	151.0	152.9	151.6	152.3	153.4
県北	100.0	104.8	111.2	116.9	126.2	143.1	156.0	160.1	164.9	168.6	170.2
鹿行	100.0	102.7	107.2	114.4	117.2	141.9	153.2	155.1	149.3	142.0	140.6
県南	100.0	104.2	119.7	112.1	115.4	141.7	147.0	147.5	142.7	143.0	145.2
県西	100.0	104.3	108.0	113.7	115.1	148.8	145.8	144.9	138.9	137.8	137.8

資料 茨城県統計課「茨城県人口90年のあゆみ」から

(4) 市町村別 ―増加率，減少率のトップはそれぞれ勝田市，大洋村―

本県内の地方公共団体の数は16市42町34村となつている。

このなかで，増加したのは10市25町10村であつた。

こういった現況下で勝田市の増加率は6.05%で昭和30年頃から急テンポに伸び，常時県内の2～3位の増加率を示してきた。

そのあとに続くのは，藤代町，取手町，東海村となつている。

この背景には国の主要鉄道路線の存在が一要因となつている。

なお、減少した市町村をとらえると6市17町24村で、中でも大洋村が4.88%が最も高率の減少率を示したが、これには昭和38年10月以後の転出者漏れであり、昭和42年11月に実態調査を行つた時の累積数であるので、年間の純減少率と解するのは問題があろう。

次に美和村、北茨城市と続き、ことに北茨城市における減少を注目してみたい。大正4～9年には55.6%と驚異的増加率を記録し、炭坑町として全盛を誇りその後暫時増加の経路をたどつたが、昭和35年を契機に毎年県下最高の減少を示し現在に至つた。

その背後に「エネルギー革命」に伴ない石炭業界の著しい変化があつたことが主要因であらう。

表5 主な人口増減市町村の推移

(1) 主な人口増加市町村の推移

市町村別	昭和42年1年間		昭和25～30年		昭和30～35年		昭和35～40年	
	増加数	率%	増加数	率%	増加数	率%	増加数	率%
勝田市	3,293 ^人	6.05	3,832 ^人	10.9	4,649 ^人	12.0	9,339 ^人	21.6
藤代町	807	5.93	△ 128	△1.0	△ 335	△2.6	396	3.1
取手町	1,288	4.59	1,603	8.2	1,349	6.4	3,597	15.9
栗海村	646	3.75	121	1.1	2,395	20.7	2,587	18.5
土浦市	2,351	2.89	3,138	4.6	△ 549	△ 0.8	7,593	10.6
水戸市	4,092	2.64	11,890	12.1	11,168	8.7	15,594	11.2
古河市	1,331	2.60	3,637	9.9	2,268	5.6	7,728	18.2
牛久町	450	2.59	451	3.0	384	2.4	1,072	6.6
千代田村	409	2.57	△ 199	△1.6	△ 578	△4.7	△ 169	△1.5
日立市	3,760	2.08	13,774	11.7	25,858	19.1	18,477	11.5

(2) 主な人口減少市町村の推移

市町村別	昭和42年1年間		昭和25～30年		昭和30～35年		昭和35～40年	
	増加数	率%	増加数	率%	増加数	率%	増加数	率%
大洋村	△ 449人	△ 4.88	161人	1.5	△ 725人	△ 6.6	△ 881人	△ 8.6
美和村	△ 122	△ 2.99	△ 309	△ 3.3	△ 665	△ 7.4	△ 849	△ 10.2
水府村	△ 283	△ 2.76	△ 353	△ 2.8	△ 621	△ 5.1	△ 1,056	△ 9.1
北茨城市	△ 1,484	△ 2.74	3,481	6.3	2,164	3.7	△ 5,233	△ 8.6
緒川村	△ 183	△ 2.62	△ 694	△ 7.2	△ 799	△ 9.0	△ 824	△ 10.3
御前山村	△ 146	△ 2.36	△ 243	△ 7.7	△ 734	△ 9.2	△ 802	△ 11.1
大子町	△ 761	△ 2.09	△ 1,660	△ 3.7	△ 2,946	△ 6.8	△ 3,417	△ 8.5
金砂郷村	△ 272	△ 2.06	△ 415	△ 2.6	△ 831	△ 5.3	△ 1,194	△ 8.1
山方町	△ 215	△ 1.93	△ 753	△ 5.1	△ 995	△ 7.1	△ 1,211	△ 9.3
桂村	△ 145	△ 1.87	△ 781	△ 7.4	△ 930	△ 9.6	△ 847	△ 9.6

「注」鹿島郡大洋村の昭和42年1年間における率が4.88%となつてゐるが、これは昭和42年11月の実態調査によるもので1年間の純減少数ではない。

(5) 男女別人口 性比は女100.0人に対し男96.5人＝

男女の構成の割合（性比）の変化は、人口の社会動態と密接な関係があることは明らかである。たとえば、社会動態によつて人口が転入超過（社会増加率がプラス）となつてゐる都市などみてもわかるように、その性比（ $\frac{\text{男子人口}}{\text{女子人口}} \times 100$ ）は一般に高く、男子超過が現われているのに対し、人口流出側の性比は前者と反対に性比は低下している。本県は、社会動態による転出超過となつてゐるため、性比は低く、昭和43年1月1日現在でみると96.5人となつてゐる。

表6 市郡別性比の推移

区分	大正9年	大正14年	昭和5年	昭和10年	昭和15年	昭和22年	昭和25年	昭和30年	昭和35年	昭和40年	昭和42年
全国	100.5	101.1	101.1	100.7	100.1	95.4	96.3	96.6	96.5	96.3	—
本県	96.2	97.0	97.5	97.9	98.0	93.7	95.0	95.1	95.5	96.1	96.5
市部	101.0	98.4	99.8	98.5	—	93.2	94.9	95.5	97.1	97.3	97.2
郡部	96.1	97.0	97.4	97.9	—	93.8	95.1	94.8	94.4	95.2	95.8

資料 昭和40年国調「茨城県の人口」より

(6) 年令階層別人口 ー総人口の64%を占める生産年令層

総人口に生産年令階層がどのくらいの割合を占めるかにより、その都道府県あるいは市町村の発展の度合を測ることが出来る。

全国的傾向は年々その階層人口が多くなつてきている。本年もその類と異ならず順調に伸びてきている。

その反面幼年人口及び老年人口が減少しつつある。

表7 年令(4区分)別人口推計

昭和43年1月1日現在

	総 数	0～14才	15～24才	25～59才	60才以上
総数に占める割合	100%	26.5%	21.3%	41.1%	11.1%
県 計	2,075,303人	550,674人	441,074人	853,046人	230,509人
男	1,019,005	279,707	220,872	414,941	103,485
女	1,056,298	270,967	220,202	438,105	127,024

資料 茨城県統計課「茨城県の常住人口」から

表8 幼年、従属人口指数および老年化指数

年次別 区 分	大正 9年	大正 14年	昭和 5年	昭和 10年	昭和 15年	昭和 22年	昭和 25年	昭和 30年	昭和 35年	昭和 40年
1. 幼年人口 指 数	65.8	68.8	69.4	70.4	67.8	63.3	63.4	60.1	54.2	43.7
2. 老年人口 指 数	10.9	10.9	10.5	10.4	10.3	9.3	9.5	10.1	10.8	11.2
3. 従属人口 指 数	76.7	79.7	79.9	80.8	78.1	72.6	72.9	70.2	65.0	54.9
4. 老年化 指 数	16.6	15.9	15.1	14.7	15.1	14.7	15.1	16.9	20.0	25.6

1. 15～64才人口に対する15才未満人口の比率
2. " " 65才以上人口の比率
3. " " 15才未満および65才以上人口の比率
4. 15才未満人口に対する65才以上人口の比率

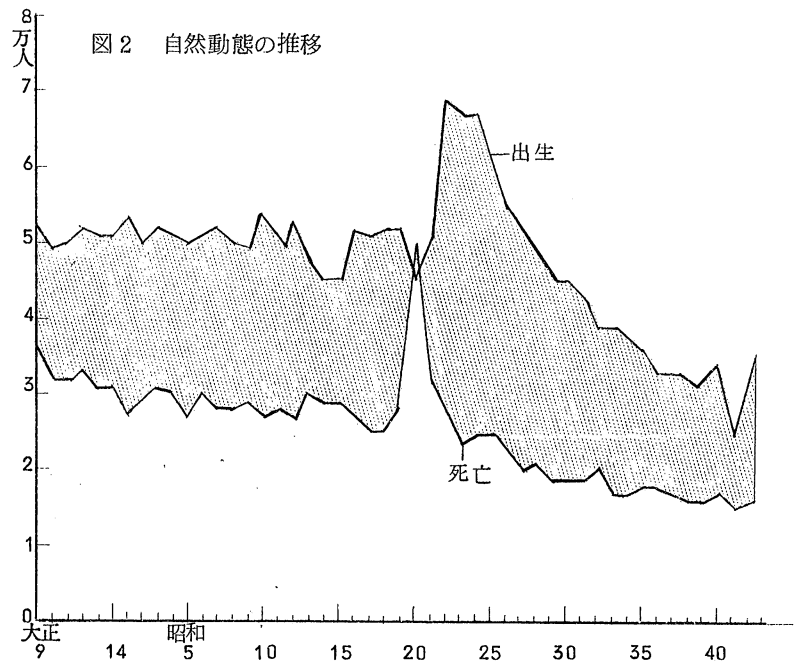
資料 昭和40年国調「茨城県の人口」から

3 出生と死亡＝『ひのえうま』解禁による自然増加は大＝

本県の自然動態も全国とほぼ同じ経路をたどり過去において、特に述べることはないが、昭和20年には戦争終結直前であり、その時に第1回国調以来のマイナス現象があつた。

本年の自然動態には特色がみられる。それは、前述したごとく昭和41年の「ひのえうま」解禁により10.6%という例年類のない高率を示した。その内訳は出生によるもの18.1%（36,413人）死亡によるもの7.5%（15,526人）となつている。

自然動態における男女の性比は出生、死亡ともに女子を上廻つている。



地域市町村別にとらえてみると出生数率ともに最も高いのは日立市、低い牛堀町、死亡数率は夫々桜川村、牛久町があげられ、ことに桜川村では本県唯一の自然増加マイナスを記録した。このような現象は農山村地帯特有なものであり生産年齢階層の流出が継続し、その累積結果がもたらすものである。このようなことからでも都市部における出生の増、死亡の減農山村部における出生の減、死亡の増と反対の傾向にあることがわかる。

表9 「自然増加率」の高い市町村と低い市町村

— 昭和42年 —

高 い 市 町 村		低 い 市 町 村	
市 町 村 名	率 %	市 町 村 名	率 %
日 立 市	19.3	桜 川 村	△0.5
東 海 村	19.1	水 府 村	0.1
古 河 市	18.4	御 前 山 村	0.7
常 陸 太 田 市	18.1	三 和 村	0.7
取 手 町	17.3	牛 堀 町	0.8
境 町	15.7	里 美 村	1.0
水 戸 市	14.8	桂 村	1.2
波 崎 町	13.3	緒 川 村	1.2
石 岡 市	12.6	美 浦 村	2.0
土 浦 市	12.5	新 利 根 村	2.8

以上10位まで 県率10.6% 資料 県統計課「茨城県の常住人口」から

4 転入と転出

人口移動の動向は県勢，市町村勢発展の側面を示すバロメーターとよくいわれている。

(1) 概 況 ー近年にない低率な県外流出ー

本県の人口移動は昭和34年を契機に毎年減少を続けてきている状況である。こういつた中で本年からは△3,437人，△1.7%と数年類のない低い減少率を示したことは非常に注目すべきことであろう。

これを市郡別にみると市部において2,107人，2.3%の増，郡部において△5,544人，△4.9%の減でやはり都市部への集中化が表われている。

また，その移動者総数も年々増し，現在の日本諸情勢がいかに激しいことかも計り知ることができる。

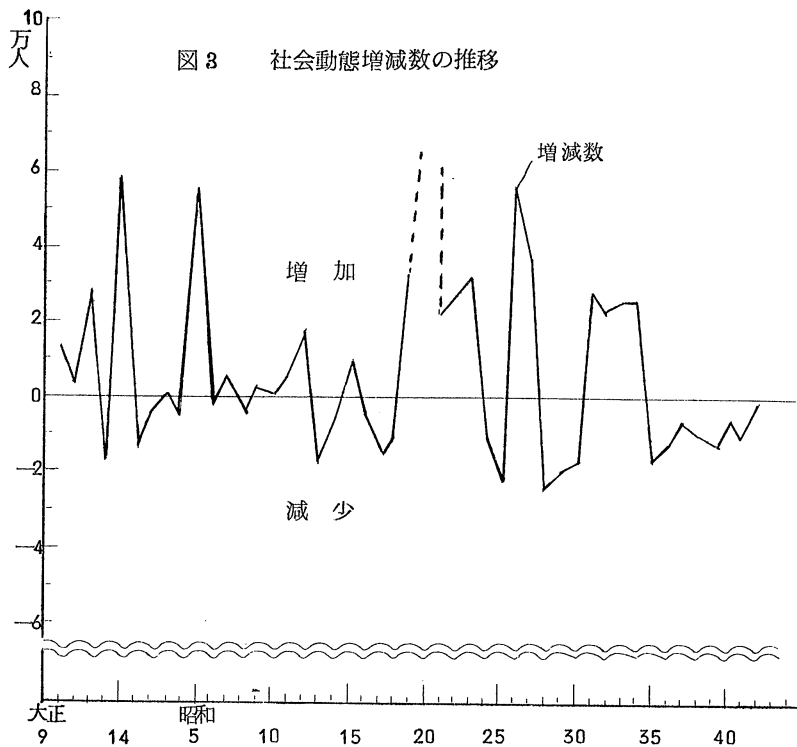


表 10 年次別社会動態の推移

区分 年次別	10月1日現在における 本県人口総数	転出入者数	移動率	転出 超過数
昭和36年	2,055,254人	160,609人	7.8%	5,729人
37	2,062,849	185,929	9.0	9,911
38	2,064,914	178,840	8.7	12,910
39	2,076,621	185,685	8.9	9,369
40	2,056,154	191,699	9.3	10,153
41	2,056,637	193,828	9.4	10,490
42	2,071,277	196,475	9.5	3,437

資料 県統計課「茨城県の常住人口」から

(2) 地域別人口移動 ー激しい県北の転出入者ー

本県を4ブロックに区分し、そのブロック別にとらえてみると県総人口の46%を抱え、また、県の重要都市のある県北地域の転入者数が最も多い。

しかしながら転出超過をしていることは見逃せない事実である。

その反面、県南地域においては唯一の転入超過をみたのもまた見逃せない。

表11 地域別社会動態の状況

—昭和42年—

区分 地域別	10月1日現在に おける地域別 人口数	転出入者数	移動率	転出 超過数
県北	954,710人	98,818人	10.4%	3,162人
鹿行	179,414	14,474	8.1	1,504
県南	491,982	45,582	9.3	△2,264
県西	445,171	37,601	8.4	1,025

資料 県統計課「茨城県の常住人口」から

(3) 市町村別人口移動 ー社会増加率の最も高い藤代町、低い大洋村ー

県南地域に属する藤代町も前述したごとくその地域を代表する48.0%と県トップの高率を示し、そのあとに勝田市39.8%、取手町27.2%、東海村17.4%と続いていづれも人口増加率の高い市町村であり、鉄道路が背後に控えている。

その反面低率を示す市町村を掲げてみよう。まず、トップに大洋村が出てくるがこれについては2.(3)で述べたごとく注釈を省きます。

次に大子町△37.4%、北茨城市△33.9%、水府村△28.4%、七会村、金砂郷村および高萩市と続き人口減少率の高い市町村である。

(4) 県外との転出入の状況 ー東京間の転出入者が最も多いー

本年1年間に転入、転出を合わせた総移動者数196,475人のうち県外移動者は転入者57.0%、55,081人、転出者60.2%、60,228人の現況にあるなかでも近県間(京浜地区)の移動者が主であり、東京都48,794人、24.8%との関係が最も大である。次に神奈川、千葉、埼玉と続く。

これを転出入別にみると本県への転入者の数が転出者数を上廻る県は群馬、福島のみで他は本県から流出超過である。

表 1 2 昭和 4 2 年 1 年間における本県の近県への転出入状況

区分 転出入	総数	県内	福島	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	その他の 県外
転入	9,651 ^人	39,363 ^人	3,612 ^人	2,761 ^人	732 ^人	4,214 ^人	5,672 ^人	22,281 ^人	5,586 ^人	12,298 ^人
率 %	100.0	40.8	3.7	2.8	0.8	4.4	5.9	23.1	5.8	12.7
転出	99,956	38,723	2,700	2,826	697	5,800	6,533	26,513	7,045	9,116
率 %	100.0	38.8	2.7	2.8	0.7	5.8	6.5	26.5	7.1	9.1

「注」国外転出 3 名は「その他の県外」へ計上

資料 県統計課「茨城県の常住人口」から

(5) 季節的移動 ー春季（3月～5月）に年間移動総数の 37.6%が集中ー

移動者の変動を月別にみると4月の移動数率がともに最も多く、次いで3月、5月となっている。この主要因は学卒者との関係が主である。学卒者の動向を参考のために記すると昭和42年5月1日現在で中学、高校とも就職した者が夫々15千人、19千人となっており、その両方とも県内の職を求める者が62%、60%となっている。

しかし、転入の状況をとらえてみるとその転出者数の8.9%、14.3%にしかあたらぬ低率である。このような現況が春季に転出超過となつて表われる原因であらう。

なお、冬季（12月～1月）、夏季（7月～8月）にかけては毎年転入超過となつていることを特に強調したい。

図 4
月別転出入の状況
(千人)

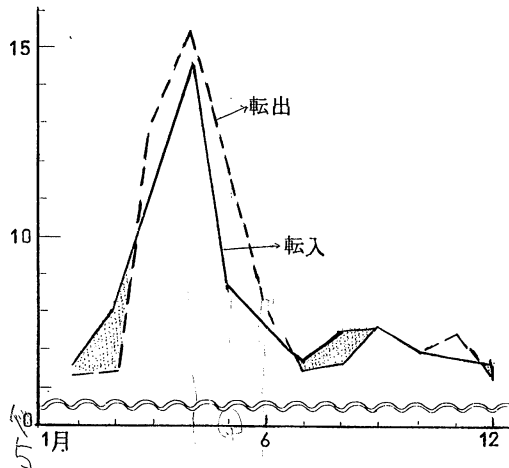


表 1 3 昭和 4 2 年月別移動率の推移

月別	区分	月別末現在における 本県人口総数	総 数	転 出 入 者 数		移 動 率
				転 入 者	転 出 者	
昭和 4 2 年 1 月		2,060,137 人	12,636 人	6,556 人	6,080 人	0.6%
2		2,062,819	13,350	7,066	6,284	0.6
3		2,063,636	24,140	11,445	12,695	1.2
4		2,065,091	29,685	14,615	15,070	1.4
5		2,064,162	20,107	8,501	11,606	1.0
6		2,065,207	15,430	7,472	7,958	0.7
7		2,067,088	12,851	6,543	6,308	0.6
8		2,069,615	13,710	7,266	6,444	0.7
9		2,071,277	14,871	7,409	7,462	0.7
10		2,072,847	13,527	6,781	6,746	0.6
11		2,073,796	13,593	6,555	7,038	0.6
12		2,075,303	12,575	6,310	6,265	0.6

資料 茨城県統計課「茨城県の常住人口」から

5 世 帯 二益々進む世帯の細分化二

世帯の細分化は、人口移動が激しい程その影響も大である。戦後の急激な日本経済の発展に伴いその人口移動も年々激しさを加え、現在なおその傾向にある。その傾向が昨年より目立ち、その間 1 年に 1.63% にあたる 7,433 世帯 0.85% にあたる 17,450 人の増加をみた。すなわち、1 世帯につき 2.3 人の構成人員で細分化し、昭和 4 3 年 1 月 1 日現在で 1 世帯あたり構成人員は 4.48 人である。

表 1 4 年次別人口と世帯の推移

年 次 別	世 帯 数	人 口	前回調査に対する増減				普通世帯 1 世帯の 構成人員
			増加世帯	増加率	増加人員	増加率	
大正 9 年 10 月 1 日	269,860 世帯	1,350,440 人		%	人	%	5.00 人
“ 14 “ “ “	276,120	1,409,092	6,260	1.9	58,692	4.3	5.00
昭和 5 “ “ “	279,895	1,487,097	3,775	1.3	78,005	5.5	5.25
“ 10 “ “ “	286,471	1,548,991	6,576	2.3	61,894	4.2	5.34
“ 15 “ “ “	287,677	1,620,000	1,206	0.4	71,009	4.6	5.43
“ 22 “ “ “	376,758	2,013,735	89,081	23.6	324,344	20.0	5.33
“ 25 “ “ “	375,861	2,039,418	△ 897	△ 0.2	95,074	4.9	5.41
“ 30 “ “ “	382,315	2,064,037	6,454	1.7	24,619	1.2	5.39
“ 35 “ “ “	409,465	2,047,024	27,150	6.6	△ 17,013	△ 0.8	5.03
“ 40 “ “ “	447,871	2,056,154	38,406	8.6	9,130	0.4	4.55

資料 昭和 4 0 年国調「茨城県の人口」から